



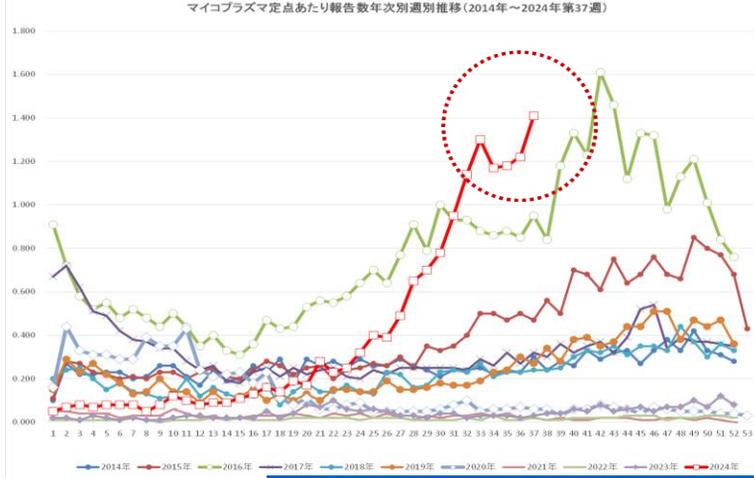
## マイコプラズマ肺炎について



マイコプラズマ肺炎とは、病原体肺炎マイコプラズマ(*Mycoplasma pneumoniae*)の感染によって引き起こされる肺炎であり、典型的な細菌性肺炎とは異なる肺炎像をとることが多い故に、**異型肺炎の一種**であるとも言われることもありました。潜伏期間は2~3週間と他の呼吸器系の感染症と比較すると長く、初発症状は発熱、頭痛、全身倦怠感等です。咳嗽は初発症状発現時より3~5日から始まり、当初は乾性の咳で徐々に増強していき、後期には湿性の咳となっていくことが多いです。**咳嗽は解熱後も長く続くことが特徴的**です。以前より「異型肺炎」として、肺炎にしてはそんなに一般状態は悪くならないことが特徴とされてきましたが、重症肺炎にまで発展することはそんなに珍しいことではありません。他に合併症として、中耳炎、髄膜炎、脳炎、肝炎、脾炎、溶血性貧血、心筋炎、関節炎、ギラン・バレー症候群等多彩なものがあげられます。

感染経路は**飛沫感染と接触感染**とされていて、感染力はそれほど強くはないので、同胞間や友人関係等、比較的濃厚な接触によって広がっていくと言われています。**罹患年齢は幼児期~青年期が中心**となりますが、もちろん高齢者が罹患して入院加療が必要となる例もみられます。

図1.にある通り、マイコプラズマ肺炎の基幹定点医療機関からの報告数は増加傾向が続いており、2024年は2016年以来8年ぶりの大きな流行となりつつあります。マイコプラズマ肺炎は**別名オリンピック病**とも呼ばれ、これまではオリンピックのある年に4年毎に流行を繰り返してきましたが、2020年は新型コロナの影響なのか流行はみられず、今回は8年ぶりの流行となっています。このような場合、8年間流行がなかったぶんの感受性者が蓄積していますので、マイコプラズマ肺炎の流行が本格化する秋から冬にかけて、相当大きな流行となることが予想されます。



2005年~2024年第37週(9月9日~9月15日)現在まで

図1. マイコプラズマ感染症の病院定点当たり報告数の年次別週別報告数の推移 (2014年~2024年第37週(2024年9月9日~9月15日)まで)

加えて、マイコプラズマの治療薬は、AZMやCAM等のマクロライド系抗菌薬が第一選択であり、次いでニューキノロン系やテロラサイクリン系とされてきましたが、近年**マクロライド系抗菌薬に対する耐性遺伝子を保有**するマイコプラズマが見られるようになってきており、特に昨年大流行した中国では、多くの症例がマクロライド系抗菌薬を投与しても効果が見られなかったと言われています。2024年の国内で現在流行中のマイコプラズマでの耐性化率について、まだ報告はありませんが、クリニック等でマクロライド系抗菌薬投与でも効果がなく、症状が悪化して当院に紹介入院となっている症例が複数例いられており、警戒が必要であると思われます。



(感染管理室 安井良則)

## 医療施設滅菌供給部門評価事業~再生処理の新たな取組について~

日頃より再生処理業務は医療施設において感染管理の重要な役割を担っていると心に留め置き業務にあたっています。ただし、再生処理業務は医療施設ごとに業務水準に大きな差があるとされています。この事を改善し、再生処理業務が出来る限り全国で統一化され、現場に正しく処理された器材が供給されるよう、日本医療機器学会の「**医療施設滅菌供給部門評価事業**」が2025年度からの本格事業化に向けトライアルしています。

私は事業の訪問審査担当者「**CSSDサーベイヤー**」の資格審査を通過し、サーベイヤーに認定されました。7月には大阪市内の医療施設の訪問審査を担当しました。今後は年間3~4施設の訪問審査に派遣される見込みです。この活動で**サプライセンターのレベルアップ**や**他の医療機関の再生処理業務の統一化**に貢献し、より質の高い滅菌物が現場に供給できる仕組みづくりに貢献したいと思っています。

(サプライ部室長 平松 治)

◆ CSSD : Central Sterile Supply Department  
病院内の器具・材料の管理・消毒・滅菌・配置を専門で行う部門



### 感染対策研修会のお知らせ

10月15日(火)17時15分より  
令和6年度第1回感染対策研修会を  
南棟3階大講堂にて開催します!

